

2019年8月6日
〈プレスリリース資料〉

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

サンパウロ州

「フランカ市精神病院車椅子移送車整備計画」に係る
草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式について

在サンパウロ日本国総領事館

7月24日(水)午前10時00分より、「フランカ市精神病院車椅子移送車整備計画」に係るアラン・カルデック精神財団への我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の供与式を行いました。式典には野口泰在サンパウロ日本国総領事、マリオ・アリアス・マルチネス・アラン・カルデック精神財団理事長、ジルソン・デ・ソウザ・フランカ市長他約30人が出席しました。

場所: Hospital Psiquiátrico Allan Kardec

住所: R. José Marquês García, 675 – Cidade Nova, Franca – SP, 14401-080

電話番号: (16) 2103-3000

● 来賓の挨拶:

(野口泰総領事)

「アラン・カルデック精神財団は、創立者のジョゼ・マルケス・ガルシア氏がフランカ市内で精神疾患を患っていた人を保護したのをきっかけに、1922年に創立されたと聞いております。そこから約1世紀が経過した現在においても、貴財団は、フランカ市を含む周辺の22市から様々な種類・程度の精神疾患患者を受け入れ、治療・社会復帰支援に取り組まれておられます。理事長を始めとする職員の皆様の長年にわたる素晴らしい取組に敬意を表します。この度、日本政府からリフト付き車椅子移送車1台の購入に対し、46,952米ドルの無償資金協力をを行います。リフト付き車椅子移送車の供与により、さらに多くの患者が日帰りサービスを受けることが可能となり、その方々が社会復帰することができれば当館にとっても大変喜ばしいことです。」と祝辞を述べました。

(マリオ・アリアス・マルチネス理事長)

「日本国政府が我々の活動に注目して下さったことに感謝いたします。今般、世界で精神疾患を患っている人口は増加傾向にあります。WHOの調査によると、現在の世界の人口の12%が精神科による治療を必要とし、そのうち31%は重度の精神疾患を抱えていると言われております。我々はこれまで、精神疾患を患っている様々な人々に対して支援活動を続けてきましたが、日本政府から供与された車により、我々は活動の幅を大き

く広げることが可能になりました。すなわち、供与された車を使用し、日帰りサービス施設への移送だけでなく、他の病院における治療、職業訓練の受講、様々な外部イベントへの参加等が可能となり、患者の皆様を社会復帰に繋げる可能性を広げることができました。患者の皆様の社会復帰を支援し、生きがいをもって生活できるようにして下さった日本の国民の皆様には感謝いたします。」と謝辞を述べました。

●案件の基本情報

案件名: フランカ市精神病院車椅子移送車整備計画

被供与団体: アラン・カルデック精神財団

プロジェクト実施地: サンパウロ州フランカ市

契約書署名日: 2019年3月13日

供与限度額: 46,952米ドル

供与品目: リフト付き車椅子移送車

●案件概要:

1. アラン・カルデック精神財団は1922年にサンパウロ州フランカ市において設立され、フランカ市を含む周辺の22の市から精神疾患患者を受け入れ、治療・社会復帰支援を行っている団体です。同団体は、行政機関と連携し、患者に職業訓練コースを受講させるなど、技術向上を通じた社会復帰支援にも取り組んでいます。
2. 昨年12月からは、フランカ市と提携し、地域の患者を1日最大150人まで受け入れることが可能な日帰りサービスのための施設を開設しました。施設の開設により、患者を施設に移送するためのリフト付き車椅子移送車が新たに必要となったことから、この度、草の根・人間の安全保障無償資金協力の申請を行いました。
3. 今回の協力は、リフト付き車椅子移送車1台の購入に対し、46,952米ドルを限度に無償資金協力を行うものです。リフト付き車椅子移送車による施設への送迎を可能にすることで、患者に対する日帰りサービス及び職業訓練を実施し、ひいては社会復帰へと繋げることを目的としています。

(問合せ先) 在サンパウロ日本国総領事館経済班
(0xx11)3254-0100

【供与式典当日の様子】



(供与された車輛)



(テープカットの様子)



(車輛後部)

(左)野口泰在サンパウロ日本国総領事、(中央)ジルソン・デ・ソウザ・フランカ市長、(右)
マリオ・アリアス・マルチネス・アラン・カルデック精神財団理事長